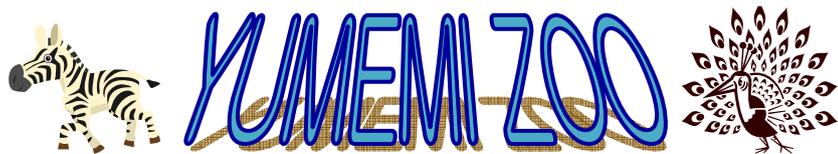


ゆめみにゅーす



季刊 VOL. 21
発行日 平成23年8月4日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030

飼育展示数 哺乳類:22種178点
鳥類:27種145点
爬虫類:11種42点
(平成23年7月末日現在)

赤ちゃん発見



▲ホンシュウジカ

▼マーコール



夢見ヶ崎動物公園では、5月頃から新しい命が次々誕生しています。

まずはホンシュウジカ。白い斑点模様は木漏れ日にまぎれ、敵に見つかりにくくすると言われています。

コモンマーモセットは前回のゆめみにゅーすで赤ちゃん誕生のニュースを取り上げました。その後、6月下旬に父親が突然死んでしまい、寂しい思いをしていたのですが、

数日後、なんとお母さんの背中にまたも赤ちゃんの姿が…。子育てには、1月に生まれただけの上の子も協力してくれています。

そしてマーコール。今年は3頭がすくすく育っています。生まれて2、3日で岩山を上り下りするたくましさです。

今後も彼らの成長を温かく見守っていただきたいと思っております。



▲コモンマーモセット



眠い…

秋の動物園祭りのお知らせ

9月19日(祝)に、秋の動物園祭りを開催します！

- ☆動物リレーガイド
 - ☆バックヤードツアー
 - ☆動物もぐもぐタイム
 - ☆動物ふれあいコーナー
 - ☆野鳥クイズコーナー
 - ☆お囃子、折り紙、竹細工コーナー
 - ☆コンサートコーナー
- などなど、盛りだくさんでお送りします。詳しい時間などはホームページ

(<http://www.city.kawasaki.jp/53/53yumemi/home/yumemi/yumemi.htm>)

に掲載予定です。

みなさまの来園をお待ちしております！



★ピックアップ動物★

ゴイシチャボ

分類: 鳥綱 キジ目 キジ科

▼メス



白黒の基石を並べたような、美しい羽色が特徴のチャボです。原産は今のベトナムで、日本では江戸時代から愛玩用として飼われていたようです。原産地の地名「チャンバ」がなまって「チャボ」になったといわれています。

ほかの種類の子ワトリには飼育員に突っかかってくるものもいるのに対し、このゴイシチャボたちはとてもおとなしく、穏やかです。

現在、当動物公園では♂♀1羽ずつ飼育しています。オスはよく歩き回っていますが、メスが見当たらないことがあるかもしれません。そんなときは人目につきにくい壁の陰などにひそんでいますので、そっとしておいてあげてくださいね。そっと、でてくるかもしれません…。

▼オス



獣医の日記

毎年、春～夏にかけて、動物園には小鳥のヒナが持ち込まれ、動物病院の一角は託児所状態になります。

「飼い猫が連れてきた」「落ちていた」…など、理由は様々ですが、都会であつてもまだまだ野鳥はたくさんいて、それをいつくしむ人々も多いのだと感じさせられます。

しかし、飛べずに迷子になっているように見えても、実は巢立ちしたばかりで、親が見守っている場合もあります。

それだけではなく、小さな鳥でも自然の一部です。弱った小鳥などを捕まえないと生きていけない動物もいます。たとえば、弱っているヒナを保護して連れて行ってしまうと、それを餌にしようとしていたタヌキなどの動物にしてみれば、「餌を横取りされた!」ということになるわけです。場合によっては、その結果、子タヌキを1匹飢え死にさせてしまっているかもしれません。

ヒトが育てるとヒトに慣れてしまい、自然で生きていくのが難しくなるなど、他にもさまざまな問題があります。

本当にヒトが助けるべきかどうか、難しいことだと思います。正解は無いのかもしれませんが、皆さんはどう思われますか。



★動物たちの主な移動(平成23年5月1日～平成23年7月31日)★

ホンシュウジカ(♀1繁殖)、マーコール(♀2♂1繁殖、♂1BL、♀1死亡)、ポリビアリスザル(♀1死亡、♂1譲渡)、コモンマーモセット(♂1死亡、性別不明1繁殖)